



ヴィネド・チャドウィック 2011
Viñedo Chadwick 2011

アルト・マイボに位置する銘醸地、
プエンテ・アルトの自社畑で収穫
されたCS100%。フレンチオー
クの小樽(新樽率77%)で22カ
月熟成。凝縮感あふれ果実味豊か
な一方、引き締まった筋肉をもつ。

ボルドー五大シャトーを打ち破った

チリ、ウルトラプレミアム の矜持

よいワインはどこでもできるが、偉大なワインは限られている。
ボルドー五大シャトーを公の場で打ち負かしたチリのエラスリス。
自然の恵みと人間の叡知の融合が、チリに偉大なワインをもたらした。

Photo: Masahiko Takeda Text: Tadayuki Yanagi

ベルリンテイスティング 審査結果

ベルリンテイスティング (2004年開催)

- 1位 Viñedo Chadwick 2000
- 2位 Señal 2001
- 3位 Château Lafite-Rothschild 2000
- 4位 Château Margaux 2001
- 4位 Señal 2000
- 6位 Viñedo Chadwick 2001
- 6位 Château Margaux 2000
- 6位 Château Latour 2000
- 9位 Errazuriz Don Maximiano 2001
- 10位 Château Latour 2001
- 10位 Solaia 2000

ベルリンテイスティング イン ニューヨーク (2010年開催)

- 1位 Errazuriz Kai 2006
- 2位 Opus One 2006
- 3位 Château Haut Brion 2006
- 4位 Errazuriz Don Maximiano 2006
- 5位 Château Lafite-Rothschild 2006
- 6位 Errazuriz Syrah la Cumbre 2006
- 7位 Señal 2006
- 8位 Stag's Leap SLV 2006
- 9位 Viñedo Chadwick 2006
- 10位 Sassicaia 2006

**世界中のプロを震撼させた
ベルリン・テイスティング**

その試飲会は今を去ること10年前、ドイツの首都ベルリンで開催された。試飲会のホスト役はアカデミー・デュ・ヴァンの創始者であるステイヴン・スバリユア。チリのウルトラプレミアムワインとして名高い、エラスリスの「ヴィネド・チャドウィック」や「ドン・マキシミアン・ファウンダーズ・リザーヴ」を、ボルドーの五大シャトーやイタリアのスーパータスカンとともにブラインドで試飲し、エラスリスの実力を検証しようというのだ。会場に集められた専門家の下した結果は、1976年にスバリユア



バローロの根源を探る、ほかイタリア総特集

『ワインアート』 The Magazine for Wine Lovers

No. 76
Autumn 2014
1800yen+税

ワインガイド
イタリア地場品種の泡
50本テイスティング
来日生産者の
各国のワインほか
テイスティング合計
222本

伝統派の仕事

特集 バローロ

Barolo,
Challenges of Traditional Style

イタリアワイン最新情報
ピエモンテ、
フランチャコルタ、
アブルッツォ現地取材
産地、品種、生産者、オリーブワイン
今、新しいステージにたつ
日本ワイン
この秋公開のワイン映画に注目!
スクリーンに切り取られた
ワインの姿

フランシスコ・バエティグ
Francisco Baettig

1969年生まれ。チリ大学を卒業後、ボルドー大学で醸造学の修士号取得。03年にチーフワインメーカーとして入社。11年、チリのワインメーカーズ・オブ・ザ・イヤーに選ばれた。



ドン・マキシミアノ・ファウンダーズ・リザーヴ 2011(中)
Don Maximiano Founder's Reserve 2011

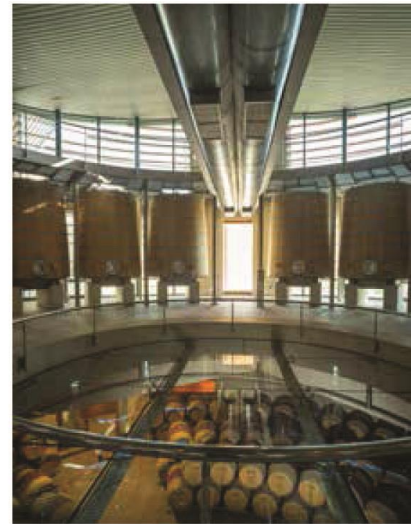
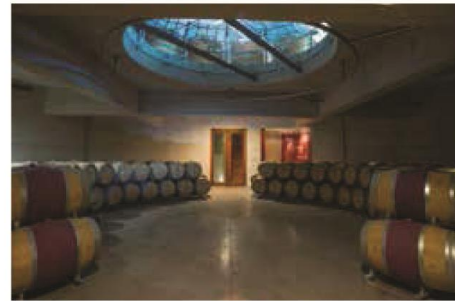
カイ 2011(右)
Kai 2011

シラー・ラ・クンブレ 2010(左)
Syrah la Cumbre 2010

ドン・マキシミアノはアコンカグア・ヴァレのCS75%、Cm10%、PV10%、Mc5%。リッチで複雑、スパイシー。カイはCm95%、PV5%。ソフトでボリューム豊か。ラ・クンブレはMAX 5畑のSy100%。北部ローヌのワインを彷彿させる。



(右上) ベルリン・テイस्टィングの仕掛け人、スティーヴン・スバリユア。(右下) ニューヨークで開催された試飲会ではなんと、カルメネルの「カイ」がオース・ワンを下し最高得点。(中・下) アイコンワイン専用ワイナリーの内部。上の階で醸造されたワインは、重力により下の樽熟庫に移動。



がカリフォルニアワインで行なったパリスの審判こと、パリ・テイस्टィングの再現であった。偉大な年である2000年のシャトー・ラフィット・ロートシルトやシャトー・マルゴーを尻目に、トップに選ばれたワインはヴィニエド・チャドウィックの00年！この試飲会はベルリン・テイस्टィングと呼ばれ、多くの人の記憶に刻まれたのである。その後、世界各地で同様の試飲会が行なわれたが、10年のニューヨークの結果ほど衝撃的なものはなかった。チリ固有の品種ともいうべきカルメネルから造られたエラスリスの「カイ」が、あのオース・ワンを打ち破ってしまったのだ。チリのエラスリスが、世界最高レベルの偉大な造り手らと、対等以上の実力を備えていることは今や明らかだ。

世界の強豪を相手に挑む品質への飽くなき追求



シラー畑の頂上から最新鋭のアイコンワイン専用ワイナリーを見下ろす。チリの有名建築家、サムエル・クラークによるデザイン。

世界の強豪を相手に挑む
品質への飽くなき追求

ヴィニエド・チャドウィックの畑は元ボロ競技場。ワインはプロのボロ選手だったエドワルドの父のオマージュ。



ヴィニエド・チャドウィックの畑は元ボロ競技場。ワインはプロのボロ選手だったエドワルドの父のオマージュ。

優れたこのワイナリーは、ポンプでブドウや果汁を傷めないように重力システムがとられている。ここで醸造の指揮を執るのが、03年からエラスリスのチーフワインメーカーを務めるフランシスコ・バエティグだ。フランスでの醸造経験が長い彼のもと、ワインの質には一層磨きがかかり、ヴィニエド・チャドウィックの06年、07年が97、ドン・マキシミアノの07年が94、カイの07年が94というように、パーカーポイントでもコンスタントに高得点を獲得している。

さらに今日、エラスリスは海岸線からわずか12キロの冷涼なアコンカグア・コスタに広大なブドウ畑を築いた。近い将来、ここから世界レベルのピノ・ノワールや白ワインが生まれるだろう。そしてまたベルリン・テイस्टィングが行なわれれば、ブルゴニーのグラン・クリュをも凌駕するに違いない。

チリ最高の自負はあったが
ベルリンの結果は想定外

チリの大統領を4人も輩出した名門、エラスリス家。ドン・マキシミアノの子孫にして現当主のエドワルド・チャドウィックは、10年前のベルリン・テイスティングを振り返り、こう語る。

「想定外の結果でした。1アイテムでも5位以内に入ればよいと思っていましたからね。もちろん自信がなかったわけではありません。その頃、世間一般では、チリワインはコストパフォーマンスに優れているといはいえ、世界最高水準のワインに太刀打ちできる実力なぞ到底ない、と考えられていました。しかし、私はチリこそブドウ栽培の楽園であり、チリの高品質ワインの中でも、エラスリスが抜き出ていると自負していました。だからなんとしても世間の偏見を払拭したかった。でも、相手はラフィットやマルゴーですから……」と、肩をすくめた。

エドワルドはこのイベントを、日本、韓国、ロシア、イギリス、アメリカ、ブラジルなど、世界17カ国で展開。10年間に延べ1400人のワイン専門家が参加したという。

「80パーセントの結果がエラスリスのワインを3位以上に選び、5位以上と幅を広げれば、その結果は95パーセントに跳ね上がります。このコンスタントな結果に私はとても満足しています。そしてこのイベント

INTERVIEW

偉大なワインにはフィネスが重要

コストパフォーマンスの高さばかり喧伝されるチリワイン。しかし、エラスリスの当主、エドワルド・チャドウィックはチリこそ世界に伍する偉大なワインができると信じていた。

の結果が、世界中の専門家にチリにも偉大なワインがあることを強く印象づけたのです。ではエドワルドにとって、偉大なワインとはいったい何なのか？

「独自の個性を持ち、その土地の特徴を最大限に反映したワイン。しかも人の介入はミニマムでなければなりません。バランスがとれ、長期熟成のポテンシャルがあることも重要です。しかし、私はいたずらに力強さばかりを求めたくはありません。偉大なワインにはいずれもフィネスが感じられるものです。アルコールの強さやオークの香りよりも、果実、酸、ミネラルの調和がとれたワインこそ、エラスリスの求めるべきスタイルです。私たちはアコンカグア・コスタに畑をもち、さらに哲学を共有するフランシスコ・バエティグがチームに加わったことで、さらに一歩目標へ近づくことが可能になりました。」

すると、カインに続くアイコンワインの登場は？

「ええ、もちろん構想はあります。ピノ・ノワールか、あるいはシャルドネか……。きっとアコンカグア・コスタのテロワールを反映した、偉大なワインになるでしょう。」



ベルリン・テイスティングは世界17カ国で開催され、そのうちの7カ国でエラスリスのワインがトップスコアをマークしている。



エドワルド・チャドウィック
Eduardo Chadwick

チリの名門カトリカ大学を卒業し、83年、23歳のときに代々一族が所有するヴィーニャ・エラスリスに入社。ポルドー大学にも留学し、そこで得た知識をもとに、斜面に畑を拡大、ワイナリーを近代化。05年、13年、英国「デカンター」誌の「ワイン産業において影響力のある人物ベスト50」のひとりに選出。

Winart

特集 ワインの熟成、ほかシャンパーニュ、イタリア、スイス現地取材

「ワインアート」 The Magazine for Wine Lovers

No. 77

Winter 2015

1800yen +税

現地取材

フランス シャンパーニュ
イタリア プーリア
スイス レマン湖地方

ワインガイド

ヨーロッパのシラー
50本テイステイング (ほか
テイステイング合計

188本

特別付録
20世紀
ヴィンテージチャート
特別読者プレゼント
熟成ワイン
飲み比べセット

特集

ワインを熟成させる
という意味

Special Feature
LOUIS ROUSSEAU
The Pleasure of Vintage
Mature and Maturing wine
represents its value

ヴィンテージを 楽しむ

第77号 2015年1月1日発行(予定) 4回発行 1,477円(税込) ISSN0915-2482 2000年4月25日創刊(第1号発行)

ワイナリーの評価を高めた
当主の高邁なる理想

英国のワイン専門家、ステイヴン・スバリュアがイニシアチブをとり、2004年にベルリンで行なわれた「ブラインド・テイスティング」のシャトー・ラフィットやマルゴなど、いわゆる「ボルドー5大シャトー」を打ち破り、トップの座に上ったのはエラスリスの「ヴィニエド・チャドウィック 2000」であった。

チリのプレミアムワイナリーがマイボ・ヴァレーの「筆地」ブエンテ・アルトのカベルネ・ソーヴィニオンから生み出したアイコンワイン。世界にテリワインの高いポテンシャルを示す、まさに金字塔となった。その後も「ドン・マキシミアノ・ファウンダーズ・リザーヴ」「シラー・ラ・クンブレ」「カイ」といったエラスリスのアイコンワインは、世界各地で行なわれたベルリン・テイスティングやメディアの評価において高得点を連続。エラスリスの名声を確固たるものにならしめたのである。

このような快進撃の背景には、当主エドワード・チャドウィックの高邁なる理想と、それを現実に投じられたブドウ畑や醸造施設への投資が実を結んだことは紛れもない事実である。しかし、もうひとつ忘れてはならないことがある。チームの陣頭に立ち、実際にワインを生み出すマエストロ、最高醸造責任者のフランシスコ・バエティッグの存在だ。11年にチリのワイナリーメーカーズ・オ

1976年、パリの審判に続く奇跡
2004年、ザ・ベルリンテイスティング

エラスリス最高醸造責任者 フランシスコ・バエティッグという才能

今や世界に冠たるチリのワイナリー「エラスリス」。その大躍進の背景について、マエストロたる醸造家、フランシスコ・バエティッグの存在を抜きに語ることはできない。

Photo: Masahiko Takeda (P123 portrait) Text: Tadayuki Yanagi



2004年のベルリン・テイスティングで、エラスリスのワインが5大シャトーを下した。

ブ・ザ・イヤーにも選ばれた、天賦の才をもつ醸造家。エドワードが理想とする、エレガンスとフィネスを備えたワイン造りも、03年に加わったフランシスコの手により、さらに推し進められることとなった。

チリ最優秀醸造家が紡ぐ フィネスとエレガンス

「ほくがワイン造りを始めて来年で20年になるけど、20年テイスティングではない。南半球だけでなく、北半球でも造ってきたからね」とフランシスコは語る。「90年代はミシェル・ロランの影響が強く、濃厚でパワフルなワインが世界中でもてはやされた。今、ほくが目指しているワインは、それとは対極にあるものだ。畑の樹齢が高まり、それぞれの区画が多様なパターナリティをもつようになり、ようやくわかってきた。テロワールをワインに表現するにはどうすべきかね。」

アイコンワインのDNAを継承 「新生マックス・レゼルヴァ」

彼はアイコンワインの醸造において培ってきたノウハウを、ミドルレンジのワインにも適用し始めた。こうして新たに生まれ変わったのが「マックス・レゼルヴァ」シリーズだ。

カベルネ・ソーヴィニオンはドン・マキシミアノ・ファウンダーズ・リザーヴのシラーはラ・クンブレの、そしてカルメネルはカイのDNAを継承。区画ごとのテロワールを見事に反映した、エレガンスとフィネスにあふれるワインの誕生だ。

Francisco Baettig フランシスコ・バエティッグ 栄光の功績

DOアコンカグア・ヴァレーのアイコンワイン、
およびセカンドワイン



ドン・マキシミアノ
ファウンダーズ・
リザーヴ 2011
Don Maximiano Founder's
Reserve 2011

カベルネ・ソーヴィニオン主体、12年、13年、2年連続でチリNo.1に選ばれたフラッグシップワイン。リッチで複雑、広がり味わい。余韻は長く、ピロードのような口当たり。(10,000円)

カイ 2011
KAI 2011

NYテイスティングでオーパス・ワンに勝利したカルメネル主体のワイン。ソフトでボリューム感のあるアタック。熟した黒い果実のアロマに黒コショウを思わせるスパイシーさ。(18,000円)

シラー・ラ・クンブレ 2010
Syrah La Cumbre 2010

チリで初めて植樹されたシラーの畑、MAX1を主体に造られたアイコンワイン。凝縮感に富みながら、フレッシュ感があり複雑な風味。タンニンはキメが細かく、北部ロース地方のシラーを彷彿とさせる。(10,000円)



マックス・レゼルヴァ・
カベルネ・
ソーヴィニオン 2012
Max Reserva Cabernet
Sauvignon 2012

ドン・マキシミアノ同様、MAX1、MAX2、MAX5のカベルネ・ソーヴィニオンを主体に、プティ・ヴェルド、カベルネ・フランをブレンド。果実味にあふれ、なおかつ骨格もしっかり。(2,600円)

マックス・レゼルヴァ・
カルメネル 2011
Max Reserva
Carmenera 2011

KAI同様、MAX5を主体に、MAX6、MAX7で収穫されたカルメネル100%。紫がかった鮮やかな色調。プラムのアロマにブラックオリーブのニュアンス。ソフトなタンニン。まるやかでスパイシー。(2,600円)

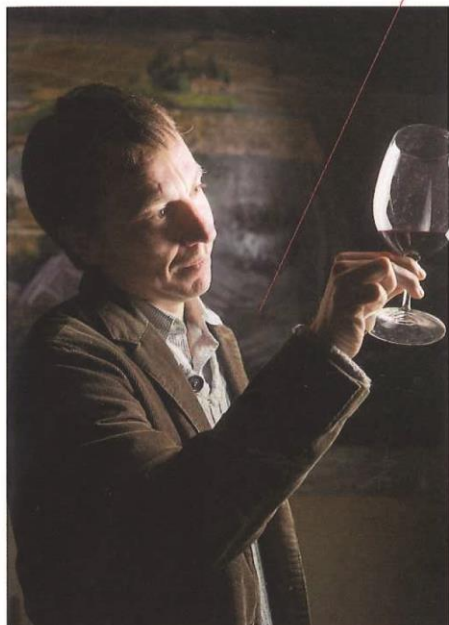
マックス・レゼルヴァ・
シラー 2012
Max Reserva Syrah 2012

MAX1、MAX2、MAX6のシラーを使用。ラ・クンブレと造りはほぼ違わず、熟成に使う新樽率や熟成期間が低いことくらい。凝縮感にあふれ、ストラクチャーもしっかりしているながらエレガント。(2,600円)

フランシスコ・バエティッグ

Francisco Baettig

1969年生まれ。チリ大学卒業後、フランスのボルドー大学でも学び、醸造学の修士号を取得。03年に最高醸造責任者としてヴィニャ・エラスリスに入社。11年、チリのワイナリーメーカーズ・オブ・ザ・イヤーに選出。



FRANCISCO
BAETTIG



エドワード・チャドウィック

カトリカ大学を卒業後、23歳でヴィニャ・エラスリスを継承。05年、13年、英国「デカンター」誌の「ワイン産業において影響力のある人物ベスト50」のひとりに選ばれる。

ヴィニエド・チャドウィック 2011

Vinedo Chadwick 2011
2004年のベルリン・テイスティングでトップに輝いたワイン。アルト・マイボのブエンテ・アルトにある自社畑で収穫された、カベルネ・ソーヴィニオン100%をフレンチオークの小樽で22カ月熟成。凝縮感あふれ、豊かな果実味をもち、引き締まった筋肉美。(30,000円)

